

# 日本計量生物学会 ニュースレター

1. 巻頭言	- 1	7. 2019 年度統計関連学会連合大会の	- 5
2. 試験統計家認定制度について	- 2	お知らせ	
3. 2018 年度・2019 年度理事会議事録	- 2	8. シリーズ「計量生物学の未来に向けて」	- 5
4. 監事選挙の結果報告	- 3	9. 学会誌「計量生物学」への投稿のお誘い	- 6
5. 2018 年計量生物セミナーの報告	- 4	10. 編集後記	- 7
6. 2019 年度年会・チュートリアル・学生 発表者への補助のお知らせ	- 4		

## 1. 巻頭言「会長就任のごあいさつ」

松井 茂之（日本計量生物学会会長・名古屋大学）

2019 年からの 2 年間、会長を務めることとなりました。このような大役を仰せつかり、大変身の引き締まる思いです。

本学会は、2 年前の 2017 年 3 月に「一般社団法人化」という大きな節目を迎えました。幸いなことに、法人の設立、非法人からの移管、法人化後の運営は大変スムーズに行われました。これは、大橋前会長と故・浜田前会長（非法人）のリーダーシップ・ご尽力によるところが極めて大きいです。この場を借りて、両先生に厚く御礼申し上げたいと思います。法人格をもつことで、社会の中で学会事業が明確に位置付けられ、また、認識してもらえようになります。その好例は、法人化と同時に発足された「試験統計家認定制度」にみることができます。すでに、公的研究事業の募集や大学人事などの基準にも採用されています。日本の臨床研究における学会の存在価値がいっそう高まっているといえます。法人化の恩恵は、他の学会や団体との交流など、今後の学会活動の多くで発揮されることと思います。

以上のように、学会は、現在、法人としての運営は軌道に乗り、会員数は増加傾向、財政上も大きな懸念材料は見あたりません。このような順調な状態を今後も維持してゆけるよう、精一杯努めて参りたいと思います。その一方で、「現状維持」の枠に留まるのではなく、今後の新しい方向性・可能性についても同時に模索したいと考えております。むしろ、学会運営が安定しているこの時期だからこそ、その良いタイミングかと思われれます。しかし、ここにはオープン・クエッションの様相も多分にありますの

で、会員の皆様から広くご意見を伺いながら考えてゆきたいと思えます。どうぞよろしくお願い致します。

私からは、キーワードの一つとして、さまざまな「交流」をあげたいと思います。本来、私たちの分野（計量生物学）は、生物・医・薬・農学等の諸分野はもちろん、統計科学の分野との深い関係なくしては前進しません。これらの分野との交流をいっそう深めることは私たちにとって基本的なことのはずです。その一方で、これまであまり付き合いがなかった分野との交流を新たに模索する方向性もあります（ビッグデータ、機械学習・AI など）。新体制では、学会イベントの企画委員会を以上のような意図のもとで構成を試みました。他学会との合同シンポジウムの開催なども検討しているところです。

別の交流の形として、国際交流もあります。もちろん、日本計量生物学会は、国際計量生物学会の日本リージョンとして必要な活動をこれまでしてきましたが、ここでいうのは海外研究者との交流です。良い交流をもつにはそれなりに長い時間を要します。また、若い時期を逃すと、なかなか難しくなるということも言えると思います。特に、若手の方には、もっと海外研究者との交流を持ってほしいと願います。海外との交流にはさまざまな意義があります。個々のレベルでは、研究や仕事の視野、可能性を大きく広げることにつながりますが、なにより、それ自体大きな楽しみを見出せるものです。一方、コミュニティーのレベルでは、計量生物学研究における日本のプレゼンス向上のための一歩の近道と思います。

海外交流の一つのきっかけとなれば幸いです。今年6月、米国ポートランドで開催される北米・カナダ西海岸リージョン (WNAR) の年會に、日本リージョンも合同することになりました。詳細は追って学会 ML などでご案内します。日本からは二つほど招待セッションを出す予定です。一般講演 (口頭、ポスター) の募集もあります。交流の秘訣は、失敗を恐れず、楽しいことだと期待をもって前に進むことだと思います。この機会を是非ご活用いただければと思います。

最後に、学会の中長期的な展望とも関わる事

項として、試験統計家認定制度のプロモーション、学会名称変更の可能性、全国の生物統計家の実態調査などは過去にも議論されたことがあったかと思えます。とりわけ、最も重要と考えることは、(多くの学会でなにかしら試みがなされている) 教育、とりわけ、次代の担い手の育成への取り組みです。学会として何かできることはないだろうか？

以上で述べたことについては、私の在任中、どこまで進めることができるか分かりませんが、出来るところから検討を始めたいと思います。改めて、どうぞよろしくお願い申し上げます。

## 2. 試験統計家認定制度について

手良向 聡, 安藤 友紀, 山本 英晴 (試験統計家認定担当理事)

2017年4月に開始しました「試験統計家認定制度」では、臨床研究の統計的デザインと解析・統計家の行動基準に関し深い知識を有し、実践している者を試験統計家 (trial statistician) として認定します。臨床研究の科学的かつ倫理的な質を高めることで人々が有効かつ安全な医療の恩恵を受けること、併せて計量生物学の進歩と発展を目指しています。規則・細則、Q&A、審査基準等の詳細については、学会 HP をご覧ください。

今後の予定は以下の通りです。なお、2019年度の認定申請のためには2017年度または2018年度の講習会への参加が必須です。

- ・2019年3月：2018年度申請分 実務・責任試験統計家認定

- ・2019年5月～7月：2019年度 実務・責任試験統計家認定申請受付
- ・2019年秋頃：2019年度 講習会 (関東と関西で1回ずつ)
- ・2020年3月：2019年度申請分 実務・責任試験統計家認定

すでに試験統計家認定を受けられた方については、更新のために有効期間内 (5年間) に30単位が必要です (詳細は細則をご覧ください)。単位が付与される学会・セミナー (日本計量生物学会年会、計量生物セミナー、計量生物学講演会、統計関連学会連合大会、IBC, EAR-BC) に参加された場合は、参加証等の証明書が必要となりますので、更新時まで保管願います。

## 3. 2018年度・2019年度理事会議事録

大橋 靖雄, 寒水 孝司 (庶務担当理事)

### ○ 2018年度第5回 e-mail 理事会

2018年11月28日から12月4日にかけて、WNAR (IBS 北米西海岸地区) の年會 (2019年6月23日～26日ポートランドにて開催) への企画参加について、e-mail 理事会を開催した。審議の結果、理事会で承認された。

### ○ 2018年度第6回 e-mail 理事会

2018年11月30日から12月6日にかけて、学会の次期役員構成について e-mail 理事会を開催した。(1) 代表理事2名、(2) 理事会指名理事5名、(3) 監事候補者2名の候補者について、理事会で承認された。

理事会の承認を受けた候補者は、評議員 (社員) による信任投票 (2018年12月10日～12月14日) により信任された。これにより、2019-2020

年度の役員が次のように確定した。

2019-2020年度

理事 16名：

安藤友紀\*, 大橋靖雄, 大森崇, 五所正彦\*, 佐藤俊哉, 柴田大朗\*, 寒水孝司, 高橋邦彦, 田栗正隆, 手良向聡, 服部聡, 船渡川伊久子, 松井茂之, 松山裕, 三中信宏\*, 山本英晴\* (\* 理事会指名理事)

代表理事 2名：

松井茂之, 大橋靖雄

監事 2名：

酒井弘憲, 松浦正明

○新旧理事会 (2018年度第6回対面理事会 / 2019年度新理事会) 議事録

日時：2018年12月17日 (月) 18:00～19:30

場所：中央大学後楽園キャンパス

2号館8階2831室

出席：大橋\*, 安藤\*, 寒水\*, 高橋\*, 田栗\*, 手良向\*, 服部\*, 船渡川\*, 松井\*, 三中\*, 山本\*, 酒井 (新監事), 松浦 (新監事)

欠席：和泉, 大森\*, 五所\*, 佐藤\*, 菅波, 松山\*, 柳川 (監事), 柴田\* (監事)

<委任状5通> (\* 新理事)

定足数を満たしていることを確認した後、大橋会長を議長として議案を審議した。

#### 第1号議案 大橋会長からの報告

大橋会長から、新理事会・監事メンバーの紹介があった。役割分担は以下のように提案され、了承された。

<2019-2020年度の各担当>

会長・代表理事：松井茂之、大橋靖雄

庶務：大橋靖雄、寒水孝司

会計：高橋邦彦、柴田大朗

編集：服部聡、五所正彦

会報：船渡川伊久子、高橋邦彦

広報：三中信宏、大森崇

企画：田栗正隆、山本英晴、五所正彦、安藤友紀

組織：松山裕、手良向聡、服部聡、田栗正隆

国際：佐藤俊哉、船渡川伊久子

学会賞：大森崇、松山裕

試験統計家認定：手良向聡、安藤友紀、山本英晴

監事：松浦正明、酒井弘憲

#### 第2号議案 庶務担当理事からの報告

庶務担当の松井理事から、入退会状況、会員数、宛先不明者の報告があり、入会者と退会者が承認された。会員名簿の作成のスケジュールが報告された。2019年度の事業計画が報告され、承認された。同担当の寒水理事から、引き継ぎ内容が報告された。

#### 第3号議案 会報担当理事からの報告

会報担当の船渡川理事から、会報128号の発行報告(2018年11月30日)と129号の発行予定(2019年2月下旬)、引き継ぎ内容が報告された。

## 4. 監事選挙の結果報告

評議員による監事選挙の結果、松浦正明氏と酒井弘憲氏が監事(任期:2019-2020年度)に選

#### 第4号議案 編集担当理事からの報告

編集担当の服部理事から、「計量生物学」の投稿状況、奨励賞選考、Bulletin of the Biometric Society of Japanの電子化の現状と今後の予定、引き継ぎ内容が報告された。

#### 第5号議案 会計担当理事からの報告

会計担当の高橋理事から、2018年度決算概況・予定、2019年度国際会員会費、2019年度予算案が報告され、承認された。引き継ぎ内容が報告された。

#### 第6号議案 企画担当理事からの報告

企画担当の田栗理事から、2018年計量生物セミナーの開催状況(参加者数122名)、2019年度年会(特別セッション、チュートリアルセミナー)、今後の予定(1)2019年度連合大会シンポジウム(企画セッション)、(2)WNAR招待セッション(2019年6月23日~26日ポートランド)について報告があった。年会の一般講演の募集・審査の手順、講演予稿集の在り方について引き続き検討し、次回理事会で案を提示することになった。

#### 第7号議案 試験統計家認定担当理事からの報告

試験統計家認定担当の手良向理事から、2018年度申請・認定審査結果、2019年度スケジュール、委員会の新体制が報告され、承認された。同担当の安藤理事から、認定のための講習会の予定と引き継ぎ内容が報告された。

#### 第8号議案 広報担当理事からの報告

広報担当の田栗理事から、IBSのウェブデザインの改修について報告があった。

#### 次回以降の理事会の予定

・日時：2019年2月1日(金)18:00~19:00

場所：中央大学後楽園キャンパス

・日時：2019年3月16日(土)16:00~17:00

場所：中央大学後楽園キャンパス

次回の社員総会(評議員会)の予定

・日時：2019年3月16日(土)17:00~18:00

場所：中央大学後楽園キャンパス

松井 茂之 (日本計量生物学会会長)

出されました。

## 5. 2018 年計量生物セミナーの報告

大森 崇, 菅波 秀規, 田栗 正隆, 船渡川 伊久子 (企画担当理事)

2018 年 12 月 7~8 日に計量生物セミナー『生存時間アウトカムに対する予測モデルの構築と性能評価』(オーガナイザー: 横田勲 (北海道大学), 大庭幸治 (東京大学), 山中竹春 (横浜市立大学), 田栗正隆 (横浜市立大学), 菅波秀規 (興和))が, AMED 生物統計家育成支援事業 京都大学 (代表: 佐藤俊哉)・東京大学 (代表: 松山裕) との共催で, キャンパスプラザ京都 (正式名・京都市大学のまち交流センター) において開催されました. プログラムは以下の通りです.

2018 年 12 月 7 日 (金)

13:00~13:10 開会挨拶・趣旨説明

I. 生存時間データに対する予測モデルの構築

13:10~14:10 TRIPOD ガイドラインを踏まえた予測モデル構築の概要 坂巻顕太郎 (東京大学)

14:10~15:10 臨床予測モデルにおける変数選択と判別・校正の方法 野間久史 (統計数理研究所)

II. 経時測定データを用いた動的予測

15:25 ~ 16:25 Joint regression modeling of longitudinal and event-time outcomes Benjamin French (Radiation Effects Research Foundation)

16:25~16:45 Joint modeling の日本語解説

17:00~17:40 ランドマークモデルによる動的予測 横田勲 (北海道大学)

17:40~18:10 Pseudo-observations による一般化線型モデルの当てはめ — 競合リスクデータへの応用 — 田中司朗 (京都大学)

III. 予測性能評価指標

18:25~19:25 予測モデル評価指標それぞれの意味づけと指標間の関係 篠崎智大 (東京大学)

2018 年 12 月 8 日 (土)

III. 予測性能評価指標 (つづき)

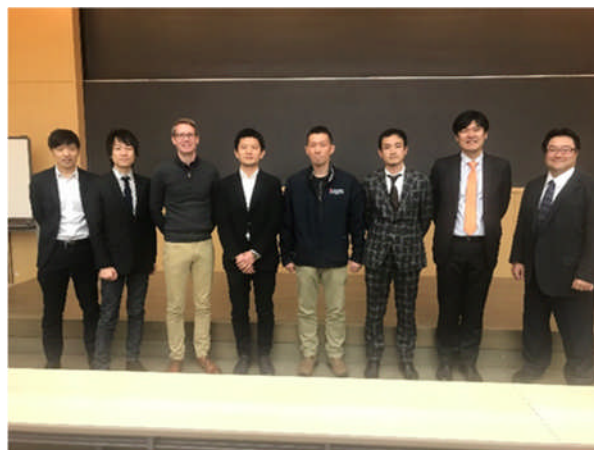
9:15~9:30 前日の復習 横田勲 (北海道大学)

9:30~10:30 生存時間変数に基づく予測モデルの評価に用いる NRI と IDI 井上永介 (聖マリアンナ医科大学)

10:40~12:10 Moving beyond association 宇野一 (Dana-Farber Cancer Institute/Harvard Medical School)

参加は会員 86 名, 学生会員 11 名, 非会員 16 名, 学生非会員 9 名の計 122 名でした.

まず, 坂巻氏から, TRIPOD ガイドラインを踏まえた予測モデル構築の概要について述べられました. 次に, 野間氏から TRIPOD ガイドラインで扱われている方法の中から特に変数選択や判別・校正といった重要な概念について解説されました. 続いて Benjamin French 氏から経時データと生存時間データの同時モデルについて, 適用事例を含めた解説が行われました. 次に, 横田氏からランドマークモデルによる動的予測について, 研究の流れとともに概要の説明が述べられました. 次に, 田中氏から競合リスクデータを例として Pseudo-observations による一般化線型モデルを用いて生存時間データを扱う方法について解説されました. 次に篠崎氏より予測モデル指標の解説とそれぞれの指標の解釈, 指標間の関係などの解説が行われました. 翌日は横田氏による前日の復習に続き, 井上氏より比較的新しい指標である NRI と IDI に関する解説と注意点の説明があり, 最後に宇野氏より C 統計量などの予測指標のいくつかの発展について紹介されました. 各演者の発表後には活発な質疑が行われました.



演者とオーガナイザー

## 6. 2019 年度年会・チュートリアル・学生発表者への補助のお知らせ

田栗 正隆, 山本 英晴, 五所 正彦, 安藤 友紀 (企画担当理事)

2019 年度日本計量生物学会年会を 2019 年 5 月 16 日 (木) および 5 月 17 日 (金) 午前に神戸大学医学部会館シスメックスホールにて開催します. また, 5 月 17 日 (金) 午後に同一会場にてチュートリアル

が開催される予定です (応用統計学会と共催). 本年会は応用統計学会の後援で実施され, 両学会員は本年会, 5 月 17 日 (金) のチュートリアル, および 5 月 18 日 (土) 開催の応用統計学会年会に, 会

員価格で参加できます。大会スケジュール等の詳細は年会 HP でお知らせする予定です。なお、年会期間中に日本計量生物学会総会・学会賞受賞式、理事会、および評議員会を開催予定です。

年会・チュートリアルのお場および参加要領  
会場  
神戸大学医学部会館シスメックスホール  
<http://www.kobe-u.ac.jp/info/outline/facilities/sysmexhall/index.html>  
〒650-0017 兵庫県神戸市中央区楠町 7-5

参加費  
事前申込：(申し込み期間は HP でお知らせ)

	年会	チュートリアル
本学会員	2,500 円	2,500 円
応用統計学会員	2,500 円	2,500 円
非会員	4,500 円	4,500 円
学生(会員, 非会員とも)	1,000 円	1,000 円

当日申込

	年会	チュートリアル
本学会員	3,000 円	3,000 円
応用統計学会員	3,000 円	3,000 円
非会員	5,000 円	5,000 円
学生(会員, 非会員とも)	1,000 円	1,000 円

特別セッション I: 「がん登録情報を利用した統計解析」

オーガナイザー: 伊藤ゆり (大阪医科大学),  
座長: 松田智大 (国立がん研究センター)・伊藤ゆり

演者(予定): 松田智大, 伊藤ゆり, 小向翔 (大阪大学), 福井敬祐 (大阪医科大学)

特別セッション II: 「私と計量生物学」

オーガナイザー: 口羽文 (国立がん研究センター), 田栗正隆 (横浜市立大学)

演者: 功労賞受賞者

チュートリアル: 5月17日(金)午後

テーマ: 「関数データ解析」

オーガナイザー: 荒木由布子 (静岡大学)

講師: 荒木由布子, Jeng-Min Chiou (Institute of Statistical Science, Academia Sinica, Taiwan R.O.C), 松井秀俊 (滋賀大学)

学生会員発表者の奨学金については、上限額(5万円)までの交通費・宿泊費の実費支給(領収書提出)とし、往復交通費1万円以上を原則とします。詳細は後日ご案内いたします。

## 7. 2019 年度統計関連学会連合大会のお知らせ

山本 英晴, 安藤 宗司 (統計関連学会連合大会プログラム委員会)

2019 年度統計関連学会連合大会は滋賀大学彦根キャンパスにおいて、2019 年 9 月 8 日(日)~9 月 12 日(木)の日程で開催されます。チュートリアルセッション、市民講演会、企画セッション、一般演題に加えてコンペティションなどを予定しています。講演数が増えたことから、昨年度より本大会の日程を 4 日としています。

詳細は未定ですが、奮ってご参加をお願いいたします。参加者数が年々増加しており、2019 年度も多くの方の参加が見込まれます。彦根の宿泊施設には限りがあるため、早めの予約をお願い致します。また、天津や京都など周辺地域での宿泊もご検討ください。

## 8. シリーズ「計量生物学の未来に向けて」

アカデミアに所属する生物統計家として

大庭 真梨 (東邦大学医学部社会医学講座医療統計学分野/臨床研究支援センター)

はじめまして。東邦大学医学部で助教をしております。まずこれまでご指導くださった計量生物学分野の先生方、計量生物学会の皆様へ感謝申し上げます。また、たびたび拝読しています本シリーズに寄稿させて頂く機会を頂きまし

たことも感謝申し上げます。

最初に私の略歴を述べます。東京大学大学院医学系研究科健康科学・看護学専攻で生物統計学/疫学・予防保健学分野を卒業後、国立成育医療研究センターに就職しました。さらに、横浜

市立大学臨床統計学で様々な疾患領域の臨床試験に参加したのち、現在は東邦大学医学部で疫学的な研究にも携わっています。

振り返ると卒後約10年になりました。就職した当時の国立成育医療研究センターは臨床研究センターが立ち上がったばかりでした。恩師の大橋靖雄先生と小児科領域の医薬品開発への熱意にあふれたディスカッションに参加しては、小規模試験に有用なデザインとは、並べ替え検定の検出力、Sequential probability ratio testを用いた有効中止の可能性、ヒストリカルデータは申請に使えないのか、CRMデザインで有効性も評価したいなどが話題にあがり、シミュレーション実験をしたり、計画を立てたりしました。異動後も議論は続き、とくにベイズ流の試験デザインについてご指導くださる恩師、議論する仲間恵まれました。また、臨床試験に熱心な医師の先生方も多く、臨床試験支援に重心を置いて働いていました。東邦大学に異動したのちは、産休・育休を取らせて頂きながら、周産期疫学に関する研究にやや重心を移して仕事をしています。疫学分野で臨床家や疫学者と議論し、人々の健康に貢献する成果を目指すことにもやりがいを感じています。

アカデミアでは、ここ数年、倫理指針の改訂や臨床研究法の施行など、制度の変更が続きました。臨床試験は見通しよく実施することが求められるようになり、成果の信頼性が期待される一方で、臨床上の疑問を解決する手段としての臨床試験と、リソースが乏しいがエビデンスが必要な領域の研究も難しくなりました。実際、小児科領域で続けてきたいくつもの臨床試験が中止になりました。学内の研究も人手や手段を確保することの困難さがうかがえます。今後しばらく、本格的な支援部門を持たない大学・病院では臨床試験が著しく減少しそうです。

それでは、生物統計家の活躍の場は減少して

しまうのでしょうか？私はそうではないと思っています。制度の変更を意識するようになって以来、研究計画について相談や打ち合わせをする際には、そもそも臨床試験なのか、適切な比較対照が存在するか、活用できるデータはないかを確認しつつ、信頼できるデータがとれるか、完遂できるのか、被験者保護や情報管理が担保されるかなどを考えるようになりました。あまり臨床研究が盛んでない診療科では特に、統計学だけでない様々な知識と視点をもって臨床家を支援する必要性が出てきます。臨床試験を取り巻く全国のアカデミア組織を見渡せば、こういった組織がほとんどではないか、同様に試行錯誤している仲間が多くいるのではと思います。

大橋靖雄先生は、よく「統計学は現実から離れられない、解決すべき問題が学問の外にある」とおっしゃっています。アカデミアで臨床研究と向き合う立場としては、現実の問題を解決するための方法は必ずしも臨床試験だけではありません。臨床試験という形にとらわれず、状況に応じて既存データの活用も含めて臨床研究の方法を模索、提案していくことにより重要性を感じています。新薬申請の場でも、疾患レジストリの活用、リアルワールドデータ、GCPリノベーションといった言葉を聞くようになってきました。様々な研究手法を現実の問題に適用するために、柔軟な適用を前向きに議論していければと考えていますし、アカデミア所属の生物統計家として寄与できる部分が大きいのではないかと考えています。

何かを調べ、新しい情報を得、議論する仕事は楽しいものです。統計学という手段をもって様々な活動をしている仲間が集まる本学会で専門家同士の交流が持てることをありがたく感じると同時に、自分からも役立つ貢献ができるよう精進してまいりたいと思います。

## 9. 学会誌「計量生物学」への投稿のお誘い

服部 聡、五所 正彦（編集担当理事）

本学会雑誌である「計量生物学」に会員からの積極的な投稿を期待しています。会員のためになる、会員相互間の研究交流をより一層促進するための雑誌をめざすため、以下の5種類の投稿原稿が設けてあります。

### 1. 原著 (Original Article)

計量生物学分野における諸問題を扱う上で創意工夫をこらし、理論上もしくは応用上価値ある内容を含むもの。

### 2. 総説 (Review)

あるテーマについて過去から最近までの研究状況を解説し、その現状、将来への課題、展望についてまとめたもの。

### 3. 研究速報 (Preliminary Report)

原著ほどまとまっていないがノートとして書き留め、新機軸の潜在的な可能性を宣言するもの。

#### 4. コンサルタント・フォーラム (Consultant's Forum)

会員が現実的に直面している具体的問題の解決法などに関する質問。編集委員会はこれを受けて、適切な回答例を提示、または討論を行う。なお、質問者(著者)名は掲載時には匿名も可とする。

#### 5. 読者の声 (Letter to the Editor)

雑誌に掲載された記事などに関する質問、反論、意見。

論文投稿となると、「オリジナリティーが要求される」、「日常業務での統計ユーザーにとっては敷居が高い」などを理由に二の足を踏む会員が多いかもしれませんが、上記の「研究速報」、「コンサルタント・フォーラム」は、そのような会員のために設けられた場であり、活発に利用されることを特に期待しています。いずれの投稿論文も和文・英文のどちらでも構いません。

2004年度から学会に3つの賞が設けられ、その一つである奨励賞は、「日本計量生物学会誌、Biometrics, JABES」に掲載された論文の著者(単著でなくても第1著者かそれに準ずる者)で原則として40歳未満の本学会の正会員または学生会

員を対象に、毎年1名以上に与えられる賞です。最近、履歴書の賞罰欄に「なし」と書くと公募の際に引け目を感じるくらいです。ここ数年、「計量生物学」に掲載された論文が受賞しており、今後もこの傾向は続くものと見込まれます。特に、上記の条件を満たす方は、ご自身の研究成果の投稿先として「計量生物学」を積極的に検討されてはいかがでしょうか。

また、特に最近の計量生物学の研究に関しては、英語の総説はあっても、日本語で書かれたよい総説・解説が存在しない分野やテーマが多く見受けられます。日本語での総説論文は、多くの会員に有益な情報を提供すると同時に大変貴重なものになりますので、その投稿は大いに歓迎されます。これまで著者から論文掲載料をいただいていたが、学会員が筆頭著者の場合は無料とすることになりました。2013年発行の34巻1号からこれを適用しています。

なお、論文の投稿に際しては、論文の種類を問わず、雑誌「計量生物学」に記載されている投稿規程をご参照ください。会員諸氏の意欲的な論文投稿を心よりお待ちしております。

## 10. 編集後記

立春も過ぎ、春が近づいてきました。年が明け、本学会は松井茂之新会長のもと新体制が始まりました。松井先生と大橋靖雄先生が引き続き代表理事を務められます。本号より、松井先生に代わって高橋邦彦先生と船渡川が2年間ニュースレターを担当します。よろしく願いいたします。

5月には神戸で年会、6月には米国ポートランドでWNAR年会、9月には滋賀で連合大会が予定されています。その頃には新しい元号となっています。新元号初の諸々の出来事を実り深いものにしていきたいです。

(青空の広がる立川より)

日本計量生物学会会報第129号  
2019年2月22日発行

発行者: 日本計量生物学会  
発行責任者: 松井茂之 編集者: 船渡川伊久子, 高橋邦彦